

やまぐち自然共生ニュース

やまぐち自然共生ネットワークは、県内で自然環境の保全活動や自然とのふれあい活動などを行っているグループや個人のネットワークです。

私たちは自然環境との共生によって、すばらしい自然環境を次世代に伝えていきます。

竜王山のヒメボタル

日本のホタルの種類は、ホタル博士と言われる横須賀市自然・人文博物館の大場信義氏の説によれば、45種+4亜種とされています。県内でホタルと言えば下関市豊田町や山口市一の坂川などのゲンジボタルでしょう。ヘイケボタルも含めてカワニナを食しますので川があるところに存在するホタルです。

ヒメボタルとは

本州・四国・九州・屋久島に棲む10mm弱の小型のホタルです。このホタルのエサは落葉の下などにいる小さな巻貝のキセルガイやオカチョウジガイなどです。故に山のホタルと言えるでしょう。メスはずんぐりしていて後翅が退化していて飛べません。飛んでいるのはオスで地上の草の上にいるメスの光を求めています。要するに求愛行動をしているのです。高度は1m前後で低空飛行です。発行時間はゲンジボタルの2秒に比べて短かく0.5秒くらいで、闇の中に放たれるその光は、まさにクリスマスのイルミネーションのようです。

竜王山のヒメボタル

ヒメボタルは県内では萩市や秋吉台などで見られますが、何といたっても山陽小野田市の竜王山でしょう。7~8年前、「兵庫県立人と自然の博物館」主任研究員の八木剛氏と動物写真家で有名な小原玲氏が調査に来られ、八木氏は「竜王山のヒメボタルは西日本一ですよ！」と言われていました。昨年5月末に来られたホタル博士の大場信義氏は、「凄い！凄いですね！」を連発しながら観察されました。個体数が多いのはキセルガイに合った自然環境があるからでしょう。

ホタルの保護活動

3年前より、ヒメボタルの保護活動を開始しました。活動とは、ホタルの見ごろの頃、行政と地元の団体と共同で20~22時まで頂上に至る道路を中腹で交通規制することです。目的は、車のヘッドライトでホタルの恋路を邪魔しないこと。年々増加する観察者と車との接触をさけ安全を確保することです。今年の期間は8日間でした。交通規制解除後中腹の駐車場はいっぱいでした。もう少し期間を延ばす必要を感じています。

ヒメボタルをモチーフにした紙芝居もあり、これを観れば、ヒメボタルの基礎的なレクチャーが出来ます。竜王山のヒメボタルにホタル祭りは似合いません。大切に後世に引き渡すのが私たちの責任です。



キセルガイ



ヒメボタル

本山会（自然観察指導員） 嶋田 紀和

行事の実施概要

平成 23 年度通常総会、第 8 回リレーミーティング in 長野山

実施日：5月21日（土）～22日（日） 天候：曇時々雨

参加者：44名 場所：周南市鹿野（コアプラザかの、長野山）

今年は10月に山口国体・山口大会が開催されるため、初の試みとして、通常総会、リレーミーティングを同時開催しました。概要は次のとおりです。

総会に先立ち、開村会長、来賓の重政山口県環境生活部次長、山下周南市いのち育む里づくり部長のあいさつがあり、続いて、長年にわたり自然環境保全実践活動に努めてこられた、下松市桜町の徳重博一さんの功績を讃え表彰式が行われました。

総会に提出された5議案は、議長に選出された白井副会長の進行により審議され、いずれも満場一致で承認されました。

総会に続いて、山口ささゆり会の野口彰さんから東日本大震災被災地でのボランティア活動について、渋川をよくする会の安永芳江さんから渋川地区を活性化させた様々な取組についてご講演いただきました。



午後からは、中山副会長の進行によるワークショップが開催され、「ネットワークに期待すること」「ネットワークの愛称」などについて、活発に意見交換が行われました。

続いて、屋外に移動し、山口県ネイチャーゲーム協会の福田和子さんの進行により、「同じ葉っぱを集めよう」「家紋を作ろう」などのネイチャーゲームを行い、自然とのふれあいを楽しみました。



夜の交流会では、料理を作っていた長野山生活改善実行グループの皆さんも参加され、参加者全員の自己紹介などで大変盛り上がりしました。

2日目は、天候が心配されましたが、朝の清掃活動を実施する頃には、朝方まで降り続いていた雨が嘘のようにやみ、予定どおり開催することができました。

自然探訪コースでは開村会長の案内により、ブナ原生林などの長野山の優れた自然景観を楽しみ、山野草講座で

は、主に本山会の嶋田紀和さんから、長野山の豊かな自然の恵みである山野草について説明があり、山菜の採取などを行いました。

閉会セレモニーは、開村会長の「やまぐち自然共生宣言 in 長野山」に続き、次回開催地である竜王山の地元団体「本山会」の嶋田紀和さんのあいさつにより終了しました。

今回の通常総会、リレーミーティングでは、周南市鹿野、長野山の豊かな自然と魅力を存分に体感することができました。



会員団体の紹介

島田川流域の自然と水を守る会

(所在地:光市,活動場所:島田川流域)

【会の発足と目的】

1992年4月設立。当時、島田川流域には既存のゴルフ場に加え、新たな建設計画が乱立し、農薬による水汚染や生態系破壊を心配せざるを得ない状況にありました。加えて、光地域広域水道計画による中山川ダム建設中で、広域水道による飲料水の質の悪化と莫大な建設費による財政悪化・水道代の高騰等の問題も浮上、産廃処分場の林立も懸念材料でした。ここで、安全で安価な飲料水を守り、自然や生態系を守るべく会は動き始めました。行政への働きかけのなか、河川管理に生態系への配慮が欠如していることもわかり、改善を求める活動も活発化。さらに、自らの足で島田川を知り流域を知ること不可欠と判明し、川と流域を知る活動も活発化。川遊び・流域ハイキング・源流ハイキング・島田川の清掃・ひよぢへのどんぐり植樹・県外の水辺の勉強旅行や、そして文化・歴史・自然に詳しい講師による講演も行ってきました。島田川の川舟・地名・昭和の頃の川の様子と人びとの暮らし、また玖珂隕石や鳥やカブトガニの講演など多岐にわたり、皆で感嘆しつつ勉強しています。



2011年で20年目を迎え、会員数は100名、やや高齢化が進みました。バブル崩壊はゴルフ場建設に歯止めをかけ、水道企業団は広域水道計画を中止しと、会の活動もあり、一応の目的は果たしたように思います。

【活動状況】

(1)川遊び(1999年から始め、既に11回開催)

魚に詳しい会員から、「じかに素足で触れねば川は分からない」との声に、川に入って魚やカニなどを探し、掃除も行っています。中下流の三井・筏場で始めましたが、去年は河口域で干潟の生き物観察でした。スッポンやオヤニラミに皆瞠目し、河口のカニの多さに感動しました。



(2)流域ハイキング・源流ハイキング

古道を辿ったり、山に登ったり、さらには淡海道、島田川流域の自然と歴史に触れる活動です。5月のシイの花で黄金色になる山々は素晴らしく、黄葉・紅葉にも淡海道の石畳にも感動しました。源流ハイキングは2001年から始め、2010年までに10回、9つの支流と本流の源流に到達しました。



(3)県外の自然と水辺をめぐる旅行

1998年に親水護岸?なる工事発祥の地、愛媛県五十崎に視察に行きました。結論は川に手を加えないのがベストということでした。その後、川辺川ダムに揺れる人吉で川漁師の話を聞きました。名水や滝や、豊かな自然を求め、三瓶・蒜山・国東、そして去年は四万十川の水と自然を堪能してきました。

世話人会代表 狩野 良三

情報コーナー

外来生物の飼育について

輸入規制の緩和により、外国産のクワガタやカブトムシが輸入され、ペットショップ等で販売されています。家庭で飼育するには問題がないのですが、何らかの事情により飼育できなくなり、野外に放した場合、もともと日本にいる虫たちのエサや住みかを奪ったり、在来の虫との間に、雑種が生まれる可能性があり、在来種がいなくなってしまう恐れもあります。



フェモラリスツヤクワガタ

飼育用に外国産のクワガタ等を購入された場合は、最後まで責任を持って育てていただき、くれぐれも野外に放さないようお願いします。

こども自然共生活動推進プログラム実施団体募集中

県自然保護課では、子どもたちが、自然とのふれあいや自然環境保全活動の実践を通じて、自然のすばらしさや大切さを実感し学習するため、22年度に続き、こども自然共生活動推進プログラム実施団体を募集しています。(財団法人山口県ひとづくり財団環境学習推進センターが実施主体として実施)

事業の実施要件等(交付要綱より抜粋)は下記のとおりです。

<対象事業>

助成金を交付する事業は、次のいずれかの事項に関する活動等であって、特定のフィールドで将来にわたって継続的に行われるものとする。

- (1) 生態系(生物多様性、希少野生動植物)の保全
野生動植物の保護・増殖 希少野生動植物の生息・生育地の保全 等
- (2) 自然環境、景観の保全
景勝地の保全 里地里山の保全 等
- (3) 自然とのふれあい
自然とのふれあいの場作り 等

<事業の要件>

- (1) 年間、3回以上の実践活動(環境学習を含む)が行われること。
- (2) こども(高校生以下)の参加が原則として10名以上であること。
- (3) 参加費は無料であること。(ただし、食事代、資料代等の経費を除く)
- (4) 当該事業の実施について、行政機関等から補助金又は委託金等の助成を受けていないこと。
- (5) 政治・宗教活動及び営利を目的とするものでないこと。
- (6) 事業実施における十分な安全対策がとられていること。

<助成限度額>

1事業に対する助成限度額は20万円とする。

<申込先・問い合わせ先>

財団法人山口県ひとづくり財団 環境学習推進センター
〒754-0893 山口市秋穂二島 1062
TEL(083)987-1110 FAX(083)987-1720
E-mail kankyo.c@hito21.jp

やまぐち自然共生ネットワークでは、みなさまからの情報をお待ちしています。

活動報告、活動予定等がありましたら、下記までご連絡ください。

〔事務局〕〒745-0816 周南市遠石2丁目6-22-302 岡谷政宏(0834-21-5822)

〔広報担当〕〒754-1101 山口市秋穂東7301-1 内田 修(090-8995-4860)

E-mail yama-kyou@gotjp.com URL <http://www.gotjp.com/yama-kyou/>